

【雨楽シリーズ 高岡のまちや】

かつての日本の家に確かにあったもの。本物の木と紙と土で造った家、時を経てなお趣を増す家、深い軒が陰影を描く家、応接の場になったり子供の遊び場になったりさまざまな機能を持った土間、家族の笑顔があふれる居間、開放したり仕切ったりしながら日々の暮らしに対応できる間取り、どこにいても家族の気配が感じられる空間。こうした家で子供たちは、家族の中での自分の位置や立場、思いやりや優しさ、絆や情緒を、五感で学びながら成長しました。

今一度とり戻したいと思います。日本の風土・文化・歴史に根ざした本当の意味での日本の住まいの原形。職人たちが精魂傾けた手仕事が光る家を造りたい。そんな思いを込めて完成させたのが「雨楽シリーズ 高岡のまちや」です。



# 大切にしたい 家族の絆や 思いやり。

●最近、絆ということがよく言われるようになりましたね。

マスコミなどでよく絆という言葉に耳にしますが、逆に考えれば、それだけ絆が希薄になっているからか

もしれませんね。社会の最小単位である家庭ではどうでしょうか。子供たちによる悲惨な事件や学校でのいじめなども問題になっていますが、親子の絆が強ければ、そうした事件や問題はもともと少なくなるのではないかと思います。

家づくりで大切なのは、絆なのです。

個を重視するあまり、子供部屋を充実させ居心地いいものにしたために、子供たちは個室にこもるようになりました。家族と顔を合わせる機会が減って、絆やコミュニケーションはどんどん減りました。それではいけない。「たたいま」と子供が帰宅したら、夕食準備をするお母さんが「おかえり」と声をかける。「今日ね…」と子供が話し始める。お母さんがにこにこそれを聞く。そんな光景が大事なのです。

主婦の城であるキッチンには、ただ設備が整った使い勝手の良さだけを追求するものではありません。この位置から、家全体の気配が感じられること、お母さんが呼びかければ家のあちこちから返事が返ってくる

## 【キッチン・リビング】

こと、そんなスペースづくりが大切だと思います。

毎日毎日の積み重ねが、家族の絆を深めます。そしてそこに、間取りが重要な要素になります。ぜひ真剣に考えていただきたいのです。

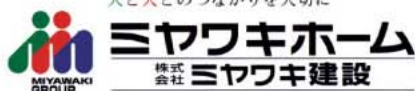
●家族が集まるリビングに、大切なことは何ですか？

昔の日本家は「田の字型」が基本でした。部屋を仕切る襖や障子を開放すれば大空間になりました。プライベートは少ないかもしれませんが、家族のふれあいは確かにありました。

居間に集まった家族が食事し、テレビを見る。おじいちゃんがうたた寝したら、ちよつと気遣ってテレビの音を小さくする。兄弟喧嘩をおばあちゃんがいさめる。いつもより言葉数が少ない妹を姉が冗談を言っていて笑わせる。そんなさまざまな関わりあいの中で、子供たちは小さな社会性を育んでいきます。

最近の統計で、頭のいい子供は、個室ではなく家族の気配が感じられるリビングやキッチンで勉強している率が高いことがわかりました。個室にこもることが問題視されています。頭のいい子供、すなわちそれは、豊かな人間性と感性を身に付けることだと思います。

ミヤワキホームの「理想の家」は、家族が集まる広いリビングを基本にしています。そして引き戸を用いることで、それを開放つと家全体が一体化し、家族の気配が感じられる住まい。絆や思いやりを大切に、子供も家族も「育つ家」を提案しています。



〒933-0826 高岡市佐野1400番地の1  
TEL 0766-26-2581  
http://www.miyawakihome.com/

●常設展示場 会場インフォメーション  
**information**  
★土・日・祝日/10:00~17:00  
★平日/連絡いただければ開館致します  
☎0120-26-2582  
※HPでも内観を見ることが可能です

